



# ものがたりニュース No.5

2024.4.30 発行



## 人をつなぎ 地域を拓き 未来をつくる 一対話・学び・共同の力で分断を越えて一

4月13日、満開の桜が咲き誇る福島大学において、第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会)の第5回現地実行委員会と、第2回現地・全国世話人合同会議が行われ、会場の下見を兼ね、全国から約60人にご参加いただきました。午前の実行委員会と午後の世話人合同会議においてテーマ及び基調提案が示されました。

### ■震災13年目の福島の今をこの目で見る

世話人合同会議では、姉崎洋一社全協委員長から「社会全体が様々な問題を抱えているが、今回は対面での集会として光を見いだそうとしている。震災後13年目の福島の今をこの目で見るのが大事だ。取組のギアを一段上げて進もう」とごあいさつがありました。



姉崎洋一社全協委員長

### ■次世代にバトンをつなぐ希望を見いだす集会に

集会概要の説明の後、千葉悦子実行委員長から集会テーマの発表がありました。「1995年の蔵王集会以降の東北での集会を振り返り、学びながら議論をかさねてきた。東日本大震災で故郷を追われた方々もおり、地域をつくりなおし、次世代にバトンをつなぐ希望を見いだす集会とするためにこのテーマ設定をした」と説明がありました。



千葉悦子実行委員長

### ■学びあいと人々のつながりをつくりだす

続いて、基調提案担当の古里貴士さん(東海大学)と千葉悦子さんから基調提案概要の紹介がありました。生活課題や地域課題に根ざした学びあいと人々のつながりをつくり出し、地域の価値を再認識していくことが必要であり、福島では震災後13年を経てもなお様々な葛藤を抱え住民間の分断や軋轢が生み出されていることを忘れてはなりません。今後さらに議論を深めましょう。



基調提案担当・古里さん

### 社会教育研究全国集会・東北福島集会 テーマソング 「物語」

Capo:2

詞/曲 あまのかずひこ

GD G C D7 G  
入道雲 吹きそよぐ風  
C D7 G C D7 G  
空をこがす 夕焼けも  
G D G C D7 G  
君のふるさと ぼくのふるさと  
C D7 G Em C D7 G  
そしてこの街にも 続いでる  
B7 Em  
見つめたひとみ確かめて  
C B7  
このぬくもり確かめて  
Em Am D7 G  
物語の生まれた この大地から  
Am D7 G Em  
手をつないだ ぼくら  
C D7 G  
未来(あした)を呼ぶよ



夏のおい 溶けてゆく影  
またたきひかる 星々も  
君のふるさと ぼくのふるさと  
そしてこの街にも 続いでる  
つないだ生命(いのち)確かめて  
この時間(とき)を確かめて  
※物語の生まれた この大地から  
新しい物語が つづられていく※  
※～※くりかえし

↓check



### 集会テーマソング「物語」 みんなで歌おう!

天野和彦・副実行委員長の作詞作曲によるテーマソング「物語」が披露されました。

YouTube 配信されていますので、QRコードからお入りください。



### 第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会)

- ▼日 時 2024年8月24日(土)～25日(日)
- ▼会 場 福島大学(福島市金谷川1) JR金谷川下車
- ▽参加費 3,000円(学生1,000円、高校生以下無料)
- ▽全体交流会 会費 一般4,500円、学生3,000円

### 【プログラム】

- 8/24 開会集会(13:30～17:30) 福島大学L棟L4講義室
- 全体交流会(18:00～20:00) 福島大学生協レストラン
- 8/25 分科会(9:30～16:30) 福島大学S棟
- 全国集会バトンタッチセレモニー(16:45～17:15)

## 第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会)現地実行委員会だより

■ミニ学習会「東北福島の社会教育実践に学び全国集会へ(2)  
「子どもの豊かな成長を支える〈学校と地域〉」  
～棚倉町立高野小学校の挑戦～  
報告:戸倉深希子さん(ふくしま社会教育士の会事務局長)



人口 13,000 人の棚倉町で全校児童 30 名ほどの高野小学校の取り組みを紹介—子どもの学びが地域の大人を動かした。子どもたちが地域を本気で学ぶと、地域の大人が地域について本気で思う、そして地域の大人が実行に移し…。子どもたちと大人がめざすのは「高野のよさがずっと続く未来の高野」という地域づくりの実践。続きは集会当日に。



### ○分科会構成 (4/28 現在)

- ①子どもの権利条約批准 30 年の今、子どもの権利と子育て支援を考える
- ②子育て & 親育ち～親が学ぶ権利、育ちあう場の保障を考える(仮)
- ③若者分科会
- ④地域福祉分科会 誰もが安心して地域で豊かに暮らせる地域福祉と社会教育を『つなぐ』(対面+オンライン)
- ⑤障がいをもつ人の生涯にわたる学習保障 分科会
- ⑥ジェンダー平等な社会をつくる女性の

- 学習分科会(対面+オンライン)
- ⑦平和分科会
- ⑧多文化共生・人権尊重をめざす分科会
- ⑨自治体改革と住民の学び
- ⑩食と健康と農業—農をめぐる学びと協同(対面+オンライン)
- ⑪自治と協同を育む住民主体の学びを創る
- ⑫今問われる公民館の役割とは何か
- ⑬社会教育機関としての図書館の存在意

- 義を考える
  - ⑭博物館分科会
  - ⑮社会教育職員がつながる分科会(対面+オンライン)
  - ⑯地域文化の創造と社会教育(対面+オンライン)
  - ⑰地域と学校
  - ⑱浜通りで学び考える福島のいま
- ※会場・時間帯が異なる分科会があります。



◇ Photo gallery ◇ 分科会の進捗状況について各世話人から報告がありました



### ◆広報担当実行委員の自己紹介

#### ○矢吹 稔(やぶき・みのる)

福島市吉井田学習センター在職中、当時の若手職員菅野貴裕さんや安西裕紀さんらと福島復興公民館大学に関わり、新たな実践の学びと社会教育の裾野の広がりを感じました。退職後は、ユネスコ活動や荒川流域の環境保全活動、地域役員等を楽しんでいましたが、いつの間にかまたご縁ができて社会教育関係者の方々との再会の機会をいただきました。暑い夏、いて湯とくだもの里福島で、心やすく集まって語り合いができれば楽しいですね。

#### ○菅野 貴裕(かんの・たかひろ)

福島市役所の菅野貴裕です。私は、東日本大震災以降に福島県内各地で開催してきた「福島復興公民館大学」の実行委員会のメンバーとして、これまで社会教育に携わってきました。県内各地の様々な実践や想いがつどい、紡がれてきた「福島復興公民館大学」。今回の東北福島集会では、「福島復興公民館大学」が大切にしてきた、おもてなしの精神を感じてもらえるような集会にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○穴戸 克己(ししど・かつみ)

かなり前のこととなりますが、青年団活動に没頭していた頃、米沢市で開かれた「東北の社会教育を考える集い」に参加、「青年団員はなぜ減っているのですか?」と質問されてうまく答えられなかったのが社会教育を学ぶ一つのきっかけでした。自分たちの活動は社会と深くつながっているのだということにのちに気づきます。東北福島でのあい、そして学びあいを全国に発信したいものです。最後に、「福島の夏は暑いですよ〜!」

#### ◆編集後記

みなさん、こんにちは。現地実行委員会だよりNo.5 をお届けします。これまでの4回とは少し趣を変え、題名をつけてみました。『ものがたりニュース』です。そう、これは、現地実行委員会の天野和彦さんが集会のテーマソングとしてご披露された歌の題名からいただきました。この集会にどんな物語があるのか。また、どんな新しい物語が生まれるのか。実行委員会だよりでは、集会に関わるお一人おひとりの物語を追ってゆきたいと思っております。何かステキな物語がありましたら教えてください。集会が終わるまでお付き合いよろしくお願いいたします。(し)